

むきぼんだ花だより

12月

2017. 12. 2

◎ヤブツバキ(藪椿)、ツバキ科・ツバキ属

常緑性小高木、照葉樹林の代表的樹種です。

別名: ヤマツバキ・カタシ(木質が固いことから) 中国名、山茶。 **原産地(自生地)** 東北以西の暖地に生育する。普通は筒状の赤花を付け樹形は不整形、花の紅と葉の深緑の艶により万葉の昔から親しまれてきました。資源としても有用な植物です。花の基部に蜜を分泌することから、ヒヨドリ、メジロが飛来する鳥獣花です。一般的に椿(ツバキ)と呼ばれ、園芸品種の基本種です。○日本内外で近縁のユキツバキから作り出された数々の園芸品種。ワビスケ、中国・ベトナム産の原種や園芸品種などを総称的に「椿」と呼びますが、同じツバキ属であってもサザンカを椿と呼ぶことはありません。○**名前の由来:** 諸説があり、光沢のある様を表す古語「つば」に由来し、「つばの木」でツバキになった説。葉が丈夫なことから「独葉木(つばき)」が転じた説。艶のある葉から「艶葉木(つやはぎ)」や「光沢木(つやき)」の意味とする説がありますが、漢字「椿」は、日本原産のユキツバキが早春に花を咲かせ春の訪れを知らせることから、日本で作られた国字といわれます。○**花言葉:** 椿には全般の花言葉「控えめな優しさ・誇り」のほかに色別の花言葉が有ります。

・赤いツバキ「控えめ素晴らしさ・気取らない優美さ・謙虚な美德。」

※白いツバキ「完全なる美しさ・申し分のない魅力・至上の愛らしさ。」

※ピンクのツバキ「控えめな美・控えめな愛・懐み深い。」 ※黒ツバキ「気取らない優美さ」。

～“ひかえめ”が付く 花言葉は、ツバキの花には香りが無いことに由来すると云われています。

★撮影日: 2017, 12, 02, ★撮影場所: 妻木山地区入口産藪林(植樹)。



ヤブツバキ(藪椿)ツバキ科、ツバキ属

◎ツバキ(椿)とサザンカ(山茶花)の見分け方

花には見た目が似たり寄ったりしているものが沢山あります。その中でも特に区別が難しいのが椿と山茶花です。色も形もとても似ていて、ほとんど同じように見えます。そこで椿と山茶花を一瞬で見分ける6つの違いを紹介します。違い①・葉の大きさの違い= 椿の葉は大きく、山茶花の葉は小さい(椿の葉の7割位)。違い②・葉の表面の違い= 椿の葉の表面はつるつるで、山茶花の葉はザラザラです。違い③・花が散るときの違い= 椿は一気に散るので、落ちた花がまとまっている。山茶花はバラバラに散るので、地面に落ちた花もバラバラです。違い④・開花時期の違い= 椿の花が咲くのは12月から4月頃まで(真冬から春まで)。山茶花が咲くのは10月から2月頃までです(開花期間が早く、短い)。違い⑤・葉を太陽の光に当てて透かして見る。= 椿の葉は葉脈の部分黒く見える。山茶花は葉脈が白く見える。違い⑥・香りの違い= 椿は香りが殆ど無い。山茶花は香り豊かで雄蕊の香りはやや強烈です。以上が椿と山茶花を見分ける簡単な6つのポイントでした。まだまだ沢山の違いがあると思われ探してみてください。～おわり～



サザンカ(山茶花)、ツバキ科、ツバキ属



ツルアロシ(蔓橘)アケボノ科、ツルアロシ属



ユキイチゴ(冬莓)、バラ科、バラ亜属、キイチゴ属

◎ヤマジソ(山紫蘇) シソ科・イヌコウジュ属

北海道から九州まで分布。里山の日当たりの良い草地に生え、草丈30～60cmの1年草。環境省絶滅危惧II類に指定。○**名前の由来:** 山野に自生し「シソ」に似て芳香があるため。○茎は多く枝を広げて茂り葉は対生で大き目の鋸歯がある。花期は8～10月。葉腋に赤紫色で唇形の小花を穂を伸ばしながら順次、先端に咲かせる。穂長は10～20cmになる。早い時期は緑色ですが、秋になると日の当たる場所では、全体に紫色を帯び栽培の紫蘇の様になる。秋に、全草を採取して水蒸気蒸留し、ヤマジソ油を作る。

★撮影日: 2017, 12, 02, ★撮影場所: 妻木新山地区谷部道路。



ヤマジソ(山紫蘇)シソ科、イヌコウジュ属



シラン(蘭)ラン科、モッコク属科シラン属



ヒヨドリジョウゴ(鴨上戸)ナス科、ナス属



ムサビアブ(武蔵野)サトウ科、ナンタンシロ属



コマユシ(小真弓)ニシキギ科、ニシキギ属

◎ヤブムラサキ(藪紫)、クマツヅラ科・

ムラサキシキブ属。別名(異名) ヤマムラサキ(山紫)・シシュ(紫手)・ミムラサキ(実紫)・ケムラサキ(毛紫)、○名前由来: 実が葉に隠れていることから「藪の中(見えにくい) ムラサキシキブの意味と思われる。落葉低木、○原産地: 日本(本州宮城県以西・四国・九州)・朝鮮半島の山地の明い林内や林縁に普通に生育する。

○花言葉: 聡明、●ヤブムラサキは、枝、葉、萼等に軟毛が密生する。(この点で、ムラサキシキブとは区別される。)樹高は2~3m前後。葉は長さ6~12cm、幅2~5cm程度の卵状披針形~長楕円形で対生する。葉は薄く、両面共に有毛のために手で触れた感触はヒロード状となる。葉の縁には不整鋸歯があり、先端は鋭先端。6~7月頃、葉腋に集散花序を出し、径5mm位の淡紅紫色の筒状花を2~10個付け、果実は径5mm程度の球形で晩秋に美しい紫色に熟します。紫熟した果実は葉の下に隠れる様に結実するのでムラサキシキブと区別できます。★近似種等: 果実が紫色で重しいので觀賞用に栽培され、変種や園芸品種も多く。~ムラサキシキブ・コムラサキシキブ・オオムラサキシキブ・ウラジロコムラサキ・シロキシキブ等。○葉で見分けるポイント: コムラサキは、樹高が2m以下と低く葉が小さい。ムラサキシキブは、葉の両面が多小ざらつく。ヤブムラサキは触るとヒロード状の感触がある。~で区別します。他に白い実をつけるシロキシキブ、葉など全体的に大型のオオムラサキシキブがあります。

★撮影日: 2017, 12, 02, ★撮影場所: 妻木新山地区谷部道路



ヤブムラサキ(藪紫)、シソ・クマツヅラ科、ムラサキシキブ属、



ムラサキシキブ(藪紫)、シソ科、ムラサキシキブ属、



ヤブコヅリ(藪柑子)、サクラソウ科、ヤブコヅリ亜科ヤブコヅリ属、



ウラジロ(藪白)、ウラボシ科、ウラボシ属、



シロソウ(藪白)、ウラボシ科、ウラボシ属、



スイカズラ(思冬)、スイカズラ科、スイカズラ属、の果実



アオモリ青文字、クスノキ科ハデコ属、
登山のつばみを付け、暮を待つています。



赤くはなれぬ、モミ、イボ、イボ、イボ、
赤い果実の樹葉とよびあっています



カラタチ(根器・桐橘)、ミカン科、カラタチ属、



クロモジの黄葉



クロモジ(黒文字)クスノキ科、クロモジ属、の黄葉



カラタチの果実

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」